

詠む広場

毎日俳壇

片山由美子 選

明易しこむら返りに目の覚めて

羽生市 今成 公江

△評▽ふくらはぎが引きつる痛さ
で目が覚めるのは早朝のことが多
い。それだけでなく短い夏の夜、
寝不足がつのりそう。

日野草郵便受けの下に咲く

狭山市 小俣 敦美

△評▽その名の通り毎日新しい花
をつけ、咲き続ける。花壇からは
み出して広がってきたのか。

晩年の一日の早し七変化

豊田市 内山 幸子

わが町の八幡さまの茅の輪かな

東京 徳原 伸吉

降臨の峰簪えある代田かな

鹿児島市 平川 玲子

一病は軽くはあらずシキタリス

町田市 枝澤 聖文

夏の朝退職しても鞠持ち

檀原市 信賀 美保

炊き上がる米ふつと梅雨明くる

鳥 取 馬野慎一郎

夏草や工場跡地の売り看板

志木市 谷村 康志

我先に馬駆け抜ける夏野かな

相模原市 はやし 央

小川 軽舟 選

噴水や鳥語人語の多国籍

新潟市 鍋谷 彰子

△評▽ガビチョウやインコなど外
来の鳥が野生化している。外国人
の急増と合わせて、今の日本の公
園の風景を描いた。

百日草明日は晴れるか頑張るか

橋本市 米澤 俊江

△評▽がんばるかどうかはお天気
次第という生き方がはがらかだ。
熱い夏はまだ続く。

浜に座し夏至の夕日のふと寂し

伊勢市 藤井 信弘

抽斗に古りぬ夫婦のアロハシャツ

横浜市 宮崎 一風

畳屋の蘭草のほひ梅雨晴間

東京 小栗しづゑ

乳色の梅雨の内海茫乎たり

竹原市 桜井 澄子

尾を立てて雀の喧嘩梅雨の朝

沼津市 麻場 育子

頬杖の爪の輝き夏蜜柑

高松市 今若 あれ

目立つのは苦手伏し目の柿の花

愛媛 川村 栄

突堤に座る日焼けの子供たち

小平市 水野 秋草

西村 和子 選

逃げ場なき岬の馬に驟雨来る

兵庫 小村 忍水

△評▽海と岬と放牧馬の雄大な光
景に、突然降り出した夕立。立ち
尽くす馬の背が見る見るけがる。
ダイナミックな迫力が魅力。

己が身は半ばはみ出し白日傘

大阪 池田 壽夫

△評▽強烈な日差しと猛暑から同
伴者を守るため、我が身を顧みな
い女性の姿が見えてくる。

オリブの花やほのかに聖書の香

尾張旭市 小野 薫

鉄棒に傘ぶら下がる梅雨晴間

鎌谷市 海野 公生

繋ぐ手の日焼けしてある園児かな

東京 林 半寿

青磁枕外し御僧よろけ起ち

札幌市 村上 紀夫

血管を貫ます新茶を淹れにけり

大阪市 福永 都女

引く波に被さる波や夜光虫

神奈川 中島やさか

軽トラの西へ東へ麦の秋

愛知 坪井 径子

今週は病院通い七変化

北九州市 浅野 弓子

井上 康明 選

日の蜥蜴とくろを巻いて動かさる

札幌市 岡崎 実

△評▽トカゲは、長い尾を二重三
重に巻いて炎天下にじっとしてい
る。とくろをほどいてあっとい
う間に消える直前の姿である。

帰省子の見に行く飛び込み台の蔵

川越市 大野有之介

△評▽ひさしぶりに郷里へ戻って
きた青年が、確かめに行く。ひそか
に、飛び込もうと思っていたのだ。
町を出て伊賀霊山の青きこと

伊賀市 福沢 義男

万緑や教会にある草田男碑

つくば市 小林 浦波

涼み船鳴門の渦を抜けにけり

市川市 高野 厚夫

肩車して甚平の太と小

浜松市 久野 茂樹

梅雨寒やミルクの多きミルクティ

土浦市 今泉 準一

シーサーに阿吽はありや仏桑花

東京 林 半寿

携帯の着信音や落し文

相模原市 はやし 央

明易のタロットカード裏返す

宇陀市 泉尾 武則



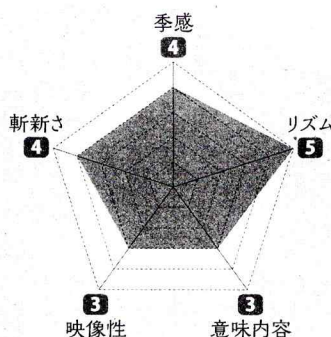
注目的一句

円堂実花

豆単はabandonから夏休み

むしを

チャートで採点



季語「夏休み」の一句に、英単語が詠みこまれています。俳句に英語やアルファベットを使うことについては賛否両論ありますが、△KIOSKの書棚くるくる雁渡し▽(岡本睦)、△太陽をOH!と迎へて老水河▽(鷹羽狩行)などの句で効果的に使われ、強い印象を与えています。使い方には注意が必要ですが、現代の日本語を反映し、今後も使われていくことでしょう。

「豆単」は旺文社の高校生向け英語基本単語集。最初に出ているのがabandon(見捨てる)です。作者は受験生でしょう。うか。初めて豆単を開いたのか、忘れた単語を覚えなおそうとしているのか、いずれにしても試験本番に向け、アツい夏が始まります。(えんどう・みか＝俳人)

アプリ
俳句てふてふ

全国景勝地俳句コンテスト 俳句てふてふは富士五湖や耶馬溪など133景勝地にちなんだ俳句を募集。1930(昭和5)年に高浜虚子選で実施した「日本新名勝俳句」の後継企画。選者は俳人の稲畑廣太郎さんと星野高士さん。詳しくはアプリ内の応募要項をご覧ください。



アプリのダウンロードはこちら